

真夏でもヒンヤリ清涼感：
世田谷の等々力溪谷として親まれる親水空間



撮影：2008年6月

◆自己流を補う下水処理水を導水

等々力溪谷を流れる矢沢川には自己流が少なく、下水処理場からの高度処理水を仙川の礫間接触浄化施設を通して約2km区間導水し、平常水を増加させています。夏でも薄暗い別空間は、都会の喧噪を忘れるには格好の場所となっています。

◆気を配った石積護岸や遊歩道のデザイン

「親水」という言葉がようやく世間に広まってきた1980年代に、溪谷の斜面地の保全と護岸・遊歩道の工事が行われました。玉石練積みを“深目地”とし、天端コンクリートが目立たないように割り石を貼り付けるなど、景観に十分配慮したつくりとなっています。

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN会員)